

Katsuyama

KATSUYAMA HIGH SCHOOL NEWS

vol.53

2021.12

Contents

同窓会会長挨拶・同窓会役員…	2
校長挨拶 ……………	3
活躍する卒業生……………	4
同窓会だより……………	5~7
母校だより……………	8
活躍する部活動……………	9
創立110周年記念式、並びに 創立記念講演会 開催報告……	10
令和3年の学校の様子…………	10
会計報告 ……………	11
進学・就職実績……………	12
事務局だより……………	12





同窓会会長

山下 豊

ご挨拶

同窓生の皆様、大変ご無沙汰いたしております。皆様には益々お元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。

平素は勝山高校、並びに同窓会に対し、物心両面に渡り温かいご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。心から感謝申し上げます。

さてコロナ禍も間もなく丸2年が経とうとしております。

すっかり様変わりした暮らし方にも何と無く慣れてきましたが、ここ数年の内に進学等で都会に出た若い同窓生の皆様にとっては、授業はリモート、アルバイトもままならない、帰省も歓迎されないという不自由な、厳しい暮らしを強いられていることと心配しております。しかし、このところ感染者も劇的に減ってまいりました。このまま終息するとは考えにくいですが、ワクチン接種も進んでおります。早く有効な薬品が開発され、コロナ前に近い生活が戻ってくることを心から念じております。

令和3年も昨年同様多くの同窓会行事が中止、または大幅に縮小しての開催ということになりました。恒例の同窓会総会後の懇親会も中止、当番幹事の普通科41期生商業科26期生の皆様にはせっかくの同級生が集まる機会がなくなってしまい、不完全燃焼のままという残念な結果となってしまいました。

今年はまた記念すべき勝山高校創立110周年の年でありましたが、同様に規模を縮小しての開催となりましたが、厳粛で素晴らしい式典が出来ました。合わせて大変立派な記念誌も出来上がりました。改めてこの永い歴史を支えて来て下さった諸先輩方に改めて感謝申し上げます。

この110周年に合わせたかのように令和4年度からビジネス科が募集停止となり、令和6年度から普通科だけの真庭市の進学拠点校として再スタートします。ただ単に難関大学への合格者を増やすだけでなく、地域に戻り、地域の為に活躍する優れた人材も輩出する高校であることを希望いたします。

勝山高校が120年、130年に向け更に発展しますように、また、同窓生の皆様にとって令和4年が素晴らしい年となりますようお祈りしご挨拶といたします。

令和4年度 本部総会のお知らせ

来年度の当番幹事は、平成3年3月卒業の皆様方です。ご協力よろしく申し上げます。

日時 令和4年8月14日(日) 10時

場所 勝山高校同窓会館

懇親会 12時より **会場** 勝山文化センター

同窓会役員

役名	氏名	卒期
顧問	近藤 正美	中19
会長	山下 豊	高20
副会長	松浦 征護	高14
副会長	太田 詳子	高17
副会長	三船 昌行	高17
副会長	岡田 健	高21
副会長	宮島 敦子	高27
副会長	池田 浩規	高34
監事	長尾 卓洋	高29
監事	綱島 直彦	高30

役名	氏名	卒期
会計事務長	平岡 明子	
東京支部長	井上 光一	高33
岡山支部長	内山 満義	高22
関西支部長	木村 康雄	高17
津山支部長	二木 浩	高32
鳥取支部長	山藤 輝彦	高3
島根支部長		
川上支部長	徳山 周一	高25
落合支部長	道満 祥雄	高19
勝山支部長	結家 恭一	高13

役名	氏名	卒期
大佐支部長	金平 敏数	高13
中和支部長	由井 堅史	高30
美甘支部長	戸田 典宏	高36
新庄支部長	坂本 茂樹	高27
八束支部長	小谷 仁志	高30
久世支部長	石村 修	高30
月田支部長	植田 浩史	高27
富原支部長	久重 俊正	高8
湯原支部長	横辺 由江	高34



校長

池田 浩規

ごあいさつ

全国2万人の岡山県立勝山高等学校同窓生の皆様には各職場や社会で益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。本年4月から校長として赴任した池田でございます。私も本校卒業生（同窓生）であり、卒業年度は昭和58年度、高校第34回の卒業になります。

本校は、本年10月8日、学校創立110周年記念式を挙行いたしました。

昨年から続く世界的パンデミックの中で開催自体が危ぶまれましたが、職員・生徒が力を合わせ、工夫と努力で開催にこぎつけ、厳かな中無事式を終えることが出来ました。関係各所、同窓生の皆様はこの場をお借りしまして報告と御礼を申し上げます。

1世紀を越える歴史を振り返ってみれば、先人の100年先を見通した学校設置の歴史があり、戦争があり、大規模校の時代があり、学園紛争があり、「荒れた」時代があり、大学進学実績が驚異的に伸びた時代があり…、様々な時代がありました。そして今はどんな時代なのでしょう。

現在、めまぐるしく変化する時代とか、10年後に無くなっている仕事が沢山あるなどとか、声高に言われていますが、そんなことは今に始まったことではなく、これまでも我々が経験してきた過去です。「新しい時代=今」を生きていくには学んでいくしかありません。新しいことを学び、自分に採り入れていくことでのみ未来は開けていくのです。そのことを生徒たちに伝え、今後も勝山高等学校は真庭市の「知の拠点」として発展してまいります。

令和4年度から始まる岡山県の高校再編整備計画により、勝山高等学校は普通科4クラス定員160人の単科高校として生まれ変わります。岡山県北部の進学拠点校としての位置づけが明確となり、現在新年度に向けての準備を進めているところです。

商業科（現在のビジネス科）は、昭和37年に設置され、60年を超える長きにわたり真庭郡内・岡山県内はもとより日本を支える有能な人材を多く輩出してきました。卒業生は4,600名を超え、日本の昭和から平成を支えてきたと言っても過言ではありません。

商業科（現在のビジネス科）の募集停止がなされることは痛恨の極みですが、先人が切り拓いてきた実業教育の理念を今後も「新生・勝山高等学校」の中で引き継いでいきます。商業科（現在のビジネス科）の同窓生の皆様方には今まで同様勝山高等学校へのご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

ふるさと岡山“学び舎”環境整備事業からお願い

この制度はふるさと納税制度を活用した学校指定の寄附金となっております。昨年より110周年記念事業にあわせて、同窓生の皆様にご支援をお願いしてまいりましたが、同窓会の集まりができていない状況もあり、宣伝不足からか思うように集まっていない状況です。学校ではICTを活用した学習活動に必要な機器の更新を予定しております。この事業は令和4年3月までとなっております。皆様のお力をお借りしたいと思います。本校教育活動充実のため、なにとぞご協力をお願いいたします。



活躍する卒業生



Mitsugi Motoyama

本山 貢

高31回生(昭和55年卒)
国立大学法人
和歌山大学教育学部
学部長

勝山高校を卒業してアツという間の41年間、高校生時代の楽しかった思い出も数々あるなか、勉強することの魅力や面白さを感じることなく過ごしていたような気がします。将来高校の体育教員を目指して福岡の大学に進学、いずれは岡山県内に帰ってくるつもりでした。しかし卒業後、福岡市内の病院で健康管理の仕事をするうちに本格的にスポーツ医学の勉強がしたいと思い始め、28歳で大学院に進学し、新しいことをみつけることの研究の魅力に没頭しはじめます。大学院入学と同時に結婚、生活費は助産師だった妻が支え、私は研究と論文作成に追われます。今思えば本当に妻や家族には苦勞をかけたと思います。その後、32歳で国立大学法人和歌山大学教育学部に講師として赴任し、同時に博士の学位を取得、やっと定職について家族を養うことが

できるようになったのです。その後、42歳で教授になりそれから18年、現在は学校教員養成を担う教育学部長として公務を行っています。若き時代は、学生の教育はもちろんのこと、研究で地域を飛び回るのが楽しみでした。わたしの最も大きな研究成果は介護予防のための運動プログラムを地域に広げ、その活動拠点が和歌山県内全域で350カ所、仲間が1万人を超えるまでになったことでしょうか。介護認定率も半分に抑制できたという成果です。さて、今60歳を目前して定年後は岡山県真庭市の実家に戻り、ふるさとの地で暮らしたいと思っています。これまでの経験を活かし自分にこれから何ができるか、人のために何か役に立つことができないかと今から意気込んでいます。

僕は1999年の勝山高校卒業生です。勝高での思い出は語りきれませんが、特に思い出に残っているのは部活動です。色々やりました。演劇部では演劇をする前に辞め、バレーボール部では練習についていけず半年で辞め、再び入り直しましたがやはりついていけずもう一度半年で辞めました。勝高バレーボール部史上二度辞めたのは僕だけだと思います(笑) 3年生の時には、大会前に招集される相撲部があり、僕は招集されませんでした。自ら志願し県大会に出場。個人戦軽量級(85キロ以下)で2位になり、中国大会ではベスト8になりました。競技人数こそ少なかったですが、人生で初めて結果を出せて自信がついたのを覚えています。

そして僕は今、大好きな『B'z』をネタにして吉本興業でピン芸人として活動していま

す。吉本には色々な仕事があります。メディア出演などの他に、地方営業で全国に行きました。時には流れるプールで、流れていくお客さんの前でネタをやった事もありました。もちろんウケませんでした(笑)。大阪・東京で色々な経験をし、2020年11月からは地元岡山を盛り上げるために、吉本興業地域密着型プロジェクトの岡山県住みます芸人として活動をさせていただいています。岡山のためにこれからもどんどん活動を増やしていきます。応援よろしくお願いします。♪ウルトラソウル!!ヘイ!!

P.S.勝高での部活動は全然続きませんでした。芸人は約20年続いています。人は変わりますよ(笑)



Katsuhiko Ueda

植田 勝彦

芸名：ハロー植田
第50回(平成11年卒)
吉本興業
岡山県住みます芸人



同窓会だより

同窓会総会を終えて

福原 孝明 高41回 (平成2年卒) 普通科代表

令和2年の春、高校時代の剣道部の先輩から連絡を頂きました。要件は、勝山高校の卒業生で50歳を迎える学年が、毎年8月に行われる同窓会総会と懇親会の準備をすることになっているので、まずは令和2年度の総会を見に来て欲しいというものでした。

以前から、50歳を迎える学年が当番をするという話は聞いていましたが、まさか私のところにその話があると聞いていませんでしたし、私より適任な方がおられるのではないかという思いもあり、お引き受けするかどうか迷いました。しかし、勝山高校を卒業後、大学を経て地元就職してから既に30年近く経ちますが、卒業後はほとんど高校を訪問することも無く疎遠になっていましたので、懐かしい気持ちもあり、お引き受けすることにしました。

令和2年8月9日、商業科26期生の森原淳二さんと令和2年度の同窓会総会に出席するために勝山高校に行きました。令和2年度はコロナ禍ということで総会のみで開催でした。久しぶりに訪問した勝山高校の雰囲気は私達が通っていた頃と余り変わり無い印象でした。私立の高校や新設の高校のように派手さや新しさはありませんが、綺麗に清掃、整備されていて、歴史と伝統を感じさせる落ち着いた雰囲気があり、現在在籍されている皆さんが安心して学業や部活に取り組まれている様子が目に浮かぶようでした。

そして訪問を機に、私達が勝山高校に通っていた頃のことを少し考えてみました。私達が勝山高校に入学したのは昭和62年4月、卒業は平成2年3月でした。この頃の日本経済はいわゆるバブル経済と呼ばれる実態にそぐ

わない好景気の時代でした。高校卒業後にバブル経済は崩壊し就職活動等で苦勞をされた方も多かったのでは無いかと思います。また、昭和64年1月には昭和天皇が崩御され、元号が「昭和」から「平成」へと変わりました。元号の改変を初めて経験した私達は、「平成」という聞き慣れない言葉に少なからず戸惑いや違和感を覚えていました。当時の小渕官房長官が「平成」と書かれた額を掲げる映像は今でもはっきりと思い出されます。その他にも政界を騒がせたリクルート事件や、消費税の導入、ソウルオリンピック開催等も高校在学中の出来事でした。

遠い昔のようで、ついこの前の出来事のようにも感じられ、不思議な気持ちになります。そして改めて、クラスや部活の仲間と共に笑い、悩み、頑張った高校の3年間は、私達にとって、貴重で、かけがえの無い3年間でした。

令和3年8月8日、新型コロナウイルス感染症の第五波が拡大する中、本年度も同窓会は総会のみで開催で、懇親会等はできませんでしたが、いつかこの状況が改善し、みんな揃って高校時代の話ができる日が来ることを願うばかりです。

最後になりましたが、総会を開催するにあたりご指導頂きました同窓会役員の皆様、事務局の先生方、そして総会当日の運営にご協力頂きました商業科26期生の森原淳二さん、谷本浩子さん(旧姓：定方)、普通科41期生の名和真由美さん、藤中公子さん(旧姓：福島)、本当にありがとうございました。



平成元年度剣道部



同窓会副会長
岡田 健 高21回(昭和45年卒)

創立110周年おめでとうございます。

真庭市の県立高校が令和4年4月から再編され、勝山高校は普通科4学級の単科校へ、ビジネス科は真庭高校に新しく「経営ビジネス科」として新設されます。また勝山高校蒜山校地は1学年募集定員の10%（4名）を全国から募集するとのこと。真庭市も少子化により生徒の人数がかなり激減しており、市外への進学を希望する生徒もかなりいると聞いております。市内はもとより、県内・県外からの入学者を増やすような更なる高校の魅力化により、人の流れを変える教育環境を推進していただきたく思っております。そして地域（市民）・学校（教員・生徒）と協力しながら、150周年、200周年と続く勝山高校であってほしいと思います。

私事ですが、在学中はサッカー部に所属し、「昭和44年4月より3学年がチームとしてよくまとまっていて部活動の成果が上がった年」と当時顧問の宮川先生が評するように好成績を残すことができました。春の中国高校選手権へ県代表として出場、出雲工業高校（島根代表）に勝利し、準々決勝で強豪の山陽高校（広島）に敗れはしたものの善戦。県高校総体ではベスト4。その決勝リーグでは水島工業高校について2位となり、「強豪復活」へあと一步まで迫ったと思っております。学校生活全体では、まさに「学業3割・部活7割」の生活でありましたが「我が高校生活に悔いはなし」です。そして卒業から半世紀以上となりますが、10年、20年前よりも近年のほうが同級生との距離が近くなったように思います。在校生の皆さん、校歌にもあります「向上の一路めざして」学校生活を謳歌してください！



副会長
宮島 敦子 高27回(昭和51年卒)

高校時代の思い出を書くことになり、同級生と久しぶりに当時の思い出話をしました。体育祭・文化祭や修学旅行などの行事、友だち、制服、部活動、学校帰りに寄っていた食べ物屋さん、日々のささやかな出来事等々、エピソードが次々と思い出され、時間はあっという間に過ぎていきました。幸せなことに、どれも懐かしく、笑って話せることばかり。

46年前に入学。普通科4学級、商業科3学級、計7学級。1年生教室は、敷地北側の当時既に古いと感じる木造校舎にありました。普通科4学級のロングホームルームには学級のカラーがしっかり表れていました。先生の話の聞いたり、話し合いをしたりする学級（これが普通だと思えます）。討論を重ねる学級。何故か

数学の授業をしている学級。そして私達の学級は、中庭や時には高田神社まで出かけて缶蹴りやレクリエーションをして楽しく過ごしていました。「ロングホームルームって、担任が何をするか決めて自由にできる時間なんだなあ。中学校とは違って担任の個性が発揮できるんだ。」と当時は思っていました。

先生の個性といえば、こんなこともありました。「教科書の太字だけ覚えろ。」と言われ、定期テストの解答は本当に太字だけだったこと。液体窒素を使って金魚を凍らせ、水に入れて泳がせてみせて下さったこと。夏休みの補習に子どもさんを連れてこられ、教卓に紐で繋いでハイハイさせながら授業をして下さった先生もおられました（生徒は、子どもさんの体に紐が巻き付きはしないかとはらはらしながら見ていました）。

あの先生は今どうしてらっしゃるのでしょうか？あの同級生は？コロナ禍で同窓会はもとより、数名での集まりもなかなかできない状況ですが、長らく会っていないあの友に電話でもしてみようかしら、と思うこの時です。



「記念誌編集に携わって」

副会長
三船 昌行 高17回(昭和41年卒)

本校創立110周年を、同窓生そして地域の皆さんと共に喜び合いたいと思います。

平成13年は創立90周年でした。私はまだ教職の現職でしたが90周年記念誌の編集委員に呼ばれてお手伝いしました。

平成23年の創立100周年では、記念誌の編集委員長に推されました。記念誌の編集方針は、卒業生の思い出の一コマ一コマを、文章と写真で繋ぎ合わせ、百年間を再構築することでした。生徒や先生がそれぞれの時代の中で考え体験した生身の姿を蘇らせることによって、後世の私たちは、百年間の教育内容・学校生活を理解すると共に、同窓生として時空を超えた共通認識を持ち、その絆を深めることができると考えました。

編集作業も慌ただしくなった3月11日、東日本が未曾有の大地震大津波に見舞われました。瓦礫の中でアルバムを探す人の姿には、人間にとって思い出が、生きていた証となる1枚の写真が、いかに大切かを思い知らされました。



私の印象に残っている写真を紹介します。大正11年女学校の修学旅行は、今の勝山駅裏の浜から福渡まで高瀬舟でした。福渡から岡山へは汽車です。4泊か5泊で、四国又は京阪神方面。伊勢神宮や琵琶湖が含まれる年もあったようです。

航空機でシンガポールへ、新幹線で東京へ行く現代ですが、修学旅行に馳せる思いは百年前も今も変わっていませんね。

勝山高校の魅力が広く認知され、末永く発展される事を祈念します。私も微力ながら出来る事はお手伝いさせていただきます。

私たちの同窓会

副会長

松浦 征護 高14回(昭和38年卒)



私たちは昭和38年に卒業しました14期生です。あの当時1学年の定員は5クラス250名だったと記憶しています。3年生になると、私たちは進路の関係で校地の西の端、合併教室のような所に53名のものが詰め込まれました。個性豊かな人が大変多く、とにかく賑やかな集団でした。そのためか、担任がなかなか決まらなかったと聞いています。天真爛漫でやりたい放題の行動に、怒髪天を衝くといった先生の顔、あまりに幼稚な振る舞いにあきれて言葉を失った担任の顔が今でも鮮明に思い出されます。

あの頃から幾星霜、還暦を迎えた頃、真庭市を中心に県北に住む同じクラスだった人は約15名でしたが、夫婦同伴で親睦旅行をしたらということになり、最初の旅は土佐の高知へのバス旅行でした。出発するまでは多少の気恥ずかしさと不安のようなものがありましたが、いざ出発してしまうと亭主たちの心配は杞憂でした。すぐにバスの中は賑やかになり盛り上がりました。奥方の方がずっと社交的で、明るく活気に満ちておりました。以来、回を重ねて15回ほどになりました。中国、四国地方は勿論のこと近畿、北陸、九州は佐賀まで行きました。一番遠くと言うと、韓国に住む同級生を訪ねる2泊3日の海外旅行もありました。古希を過ぎると日帰りの旅行になっていますが、年に1~2回の飲み会と旅行は私たちの楽しみとなっています。

夫婦同伴という大変ユニークなものですが、17年も続けているのは持ち回りの幹事の他に常任幹事長の精力的な尽力があり、絶えず会員間の連絡を密にしてくれていることが長く続いている理由と思われる。

喜寿を迎えた現在コロナ禍のために親睦旅行と飲み会はこの2年間中断しています。1日も早いコロナの終息を願いながら暮らしています。



副会長

太田 詳子

高17回(昭和41年卒)

皆様 コロナ禍の昨今いかがおすごしでしょうか？お見舞い申し上げます。

私が勝山高等学校同窓会の副会長を受けてなぐります。当初、会長は宮島靖先生で、勝山高等学校の校歌のMDができたばかりでした。勝山高校の前身である勝山中学校校歌、勝山高等女学校校歌も収録されています。次は(故)辻均一郎会長。おっとりとして、美味しいもの好きで落語が大好き。(残念…)今は山下豊会長。ワインが好きで社交ダンスが上手。今までご一緒した役員は同級生が5人も北さん、土井のマー君、秋元のみっちゃん、三船昌行先生、堀のよんちゃん(加納容子さん)と団塊の世代です。そのほか多くの先輩、後輩のみなさんと出会い、お世話になり社会勉強ができました。感謝の気持ちいっぱい思い出です。

思い出といえば、高校の遠足で行った星山です。去年の秋数十年ぶりで登りました。登山口が変わって、山の様子が変わっていました。昔、雑木林を抜けてクマザサの斜面と鞍部が広々とひろがっていたところが立派なヒノキの森になり、頂上直下の大岩は周りの雑木が育って半分近く隠れていました。どれだけの日々が過ぎたのか、ヒノキの成長に教えられました。私も成長したのでしょうか。

10月8日には勝山文化センターポンテホールで創立110周年記念式が行われました。コロナ禍の中、来賓の招待を少なく、校歌も音楽だけなど感染対策に気を配って準備をなさった学校の先生方のご苦労に感謝します。そして、記念講演は真庭市出身で東京大学名誉教授長尾敬介先生のお話です。演題は『同位体惑星科学』意味不明です(笑)。隕石から小惑星を知る研究かなとか??宇宙のある小惑星に先生の名前がついているそうです。Keisukenagaoステキですね。去年「はやぶさ2号」が持ち帰った砂での研究結果は、来年公式発表が出るまでは秘密と先生は楽しそうにお話してくださいました。

母校だより



第22回 鼓山祭

9月9日(木)～10日(金)に『敢為邁往～シビれる勝高 咲かせろ笑顔～』というスローガンを掲げ、第22回鼓山祭が開催されました。晴れ渡る青空の下、鼓山祭の全日程を終了したときに感じたのは、やってよかったという充実感と、来年こそはという未来への希望でした。

鼓山祭に向けて全校が動き出したのは6月のことです。やっと半袖になり始めたころに、猛暑続きの9月の世情を読むのはあまりに難しく、開催の確約が全くない状態で不安なスタートを切りました。そのような中でも団長が決まり、パート分けが行われ、生徒たちの鼓山祭に向けた強い意志と熱い情熱は日に日に増していきました。本番の明確なルールを確定できないまま活動をさせていくのはとても心苦しく辛いものがありましたが、一縷の望みに懸けて、教員も前向きに準備を進めていきました。

状況が一変したのは8月末のことです。本番が2週間後に迫ったある日、岡山県に緊急事態宣言が発令されました。鼓山祭の開催に関してこれ以上ない窮地に立たされた私たちの脳裏には、中止の二文字もよぎりました。しかし、団長をはじめとする生徒たちの思いを聞くと、容易に諦めることはできませんでした。断腸の思いで行動に厳しい制限をかけ、ルールを徹底する覚悟を持ちました。パートによっては企画がほぼ白紙に戻り、一から作り上げなくてはならないところも出てきました。自分たちが一番したかったことをしてはいけないと言われ、涙する生徒もいました。唯一可能なはずだった、体育の部の保護者の観戦もできなくなりました。今振り返ると、勝山高校の生徒、教員、保護者の方々、沢山の卒業

生が、鼓山祭開催、という最終目標に向かって耐え忍んだ二週間だったと思います。

そして迎えた当日。台本作りから知恵を絞って工夫を凝らした劇。汗だくになりながら、笑顔を届ける一心で磨き上げられたダンス。1日限定にも関わらず出し惜しみなく力を注がれた展示。2年ぶりに復活した迫力満点のパネル。そして、無言ながらも気持ちを1つにし、見ている者の心を震わせた応援合戦。個人的にはとてつもない生徒のパワーを感じた、素晴らしい鼓山祭になったのではないかと思います。しかし感じ方は千差万別で、やっぱりどこかに悔しさが残っている人もいられるかもしれません。

今年初めてクラスごとのオリジナルTシャツが導入されました。これは、生徒の案が実現した、赤・黄・青の希望の虹です。閉会式でその鮮やかな虹を見ながらふと思いました。一人ひとりが来年もっとよくしていきたいと願い、どうすればよいか考え、夢を叶えていく。その繰り返して鼓山祭は22年間引き継がれてきたのだらうと。

さあ、来年度以降の鼓山祭にもぜひご期待ください！勝山高校に幸あれ！



活躍する部活動

■ バドミントン部

現在、バドミントン部は、男子10名、女子22名の合計32名で活動しています。活動場所は、月曜日から水曜日が勝山スポーツセンター、それ以外の日は勝山高校体育館です。

活動内容は主に、ウォーミングアップ・基礎打ち・ノック練習・試合形式の練習です。

ウォーミングアップでは、ストレッチ・ランニング・フットワークを行います。その後、基礎打ちを行い、ノックの練習に入ります。ノックの練習では、その日に習得したい動きやショットをひたすら練習します。1日の練習の最後には、試合形式の練習を取り入れ、その日の成果を確認します。

私たちは9月に美作地区大会に出場しました。この試合では、「全力を出し切れた」という嬉しい声がある一方で、「緊張して力を出し切れなかった」「もう少し踏ん張れば勝てたのに」といった反省の声が多数ありました。試合は、今まで練習してきた成果を確認する場です。うれしい成果も反省点も、今後の活動改善につながる収穫でした。ここで諦めるのではなく、この悔しさをバネに替え、成長したいと思えます。バドミントンは個人競技ですが、チームで協力しなければ成長が遅くなり、勝ち上がることも困難になります。なので、今後の活動では、お互

いに声を掛け合い、苦しい練習も共に乗り越え、更なる個人成長とチーム力の向上を目指します。

今後の目標は、美作地区大会で男子学校対抗戦3位以上、個人戦男子ダブルスで4位以上、女子学校対抗戦優勝、個人戦女子ダブルスで優勝です。県大会では、男子学校対抗戦1勝、個人戦男子ダブルスでベスト64以上、女子学校対抗戦で1勝、個人戦女子ダブルスでベスト16以上を目指します。

昨年度から新型コロナウイルスの影響により活動時間の短縮や日数の減少、マスクの着用など様々な制限が設けられました。そのような状況でも、質の高い練習をしようと試行錯誤しながら練習しています。今後直面する困難も、チーム全員で乗り越えていきます。そして、楽しみながらも成長できる部活動を目指します。

今後とも応援よろしくお願いたします。

バドミントン部

主将 石井智也・浅野夕実
副主将 宮田翔太・岩野小夏



令和3年度部活動 主な成績

運動部

■ 硬式野球部

第102回全国高校野球選手権岡山県大会 出場
令和3年度岡山県高等学校1年生大会
ベスト16

■ 陸上競技部

第68回美作地区高等学校総合体育大会
女子3000m 第1位 1年 築澤麻綾
女子砲丸投 第3位 1年 横山桃華
女子やり投 第3位 2年 瀬島里乃
第60回岡山県高等学校総合体育大会 出場

■ バドミントン部

第68回美作地区高等学校総合体育大会
バドミントン競技 学校対抗戦優勝
第68回美作地区高等学校総合体育大会
バドミントン競技 ダブルスベスト20
2年 岩野小夏 2年 奥田彩乃
第68回美作地区高等学校総合体育大会
バドミントン競技 ダブルス第11位
2年 浅野夕実 2年 小椋絢加
第68回美作地区高等学校総合体育大会
バドミントン競技 ダブルス第4位
3年 中村航琉 2年 石井智也
令和3年岡山県高等学校バドミントン競技
秋季大会美作地区予選会 学校対抗戦準優勝
令和3年岡山県高等学校バドミントン競技
秋季大会美作地区予選会 個人戦ダブルス9位
2年 岩野小夏 2年 奥田彩乃
令和3年岡山県高等学校バドミントン競技
秋季大会美作地区予選会 個人戦ダブルス3位
2年 浅野夕実 2年 小椋絢加
令和3年岡山県高等学校バドミントン競技
秋季大会美作地区予選会 個人戦ダブルス5位
2年 石井智也 2年 市 智希

■ 軟式野球部

令和3年度秋季岡山県高等学校野球大会
岡山県大会 ベスト8

■ サッカー部

第68回美作地区高等学校総合体育大会サッカー競技 3位
第60回岡山県高等学校総合体育大会サッカー競技兼令和3年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技岡山県予選 県ベスト28
令和3年度岡山県高等学校サッカー選手権大会 県ベスト28

■ 女子バレーボール部

第75回岡山県高等学校春季バレーボール大会兼第73回中国高等学校バレーボール選手権大会美作支部予選会 第1位
第75回岡山県高等学校春季バレーボール大会兼第73回中国高等学校バレーボール選手権大会 県ベスト24
第68回美作地区高等学校総合体育大会バレーボール競技 第3位
令和3年度全国高等学校総合体育大会(バレーボール競技)岡山県予選会兼第60回岡山県高等学校総合体育大会(バレーボール競技)県ベスト24
令和3年度岡山県高等学校美作支部夏季バレーボール選手権大会兼第22回TOB杯バレーボール大会 女子の部 Aグループ3位
第74回全日本バレーボール高等学校選手権大会岡山県予選会兼令和3年度岡山県高等学校男女バレーボール選手権大会 県ベスト16

■ ソフトテニス部

令和3年度岡山県高等学校新人ソフトテニス大会(ダブルス)美作地区予選会 ベスト8
2年 岡田理緒 1年 池田瑞梨 ペア
1年 馬場千尋 1年 上田莉央 ペア

令和3年度岡山県高等学校新人ソフトテニス大会(団体) ベスト16

■ 水泳

第60回岡山県高等学校総合体育大会兼第89回岡山県高等学校選手権水泳競技大会兼第69回中国高等学校選手権水泳競技大会岡山県予選会(倉敷市屋内水泳センター)
3年 谷口葉奈 女子50m自由形 第1位(27.27)
第69回中国高等学校選手権水泳競技大会(鳥根県立水泳プール)
3年 谷口葉奈 女子50m自由形 第4位(27.23)

文化部

■ 美術部

第8回「美々々と展」開催

■ 吹奏楽部

第62回岡山県吹奏楽コンクール予選大会 銀賞

■ 書道部

第37回成田山全国読書大会 特選月輪賞

3年 金佐美鈴
第43回ふれあい書道展 特選
3年 吉田詩歩
第43回ふれあい書道展 特選

2年 綱島百花
特殊詐欺被害防止・交通安全ラッピングバスマにわくん揮毫
2年 稲田望実 2年 豆原ひなた
2年 伊澤美羽

■ 英会話同好会

第24回真庭地区中学校・高等学校英語スピーチコンテスト 高校生スピーチの部
第1位 2年 中谷梨乃
第2位 2年 清友お倫

創立110周年記念式、並びに創立記念講演会 開催報告

講師 長尾 敬介 氏

10月8日(金)、勝山文化センターポテホールにて、創立110周年記念式、並びに創立記念講演会が行われました。新型コロナウイルス感染症の影響で、実施できる心配もありましたが、全校生徒および全教職員の出席のもと、この10年間で本校の教育に功労のあった歴代校長をはじめとする先生方、歴代PTA会長をお迎えし、節目の年を祝うことができました。記念式での生徒会長挨拶では、「今の時代に合った新たな学校の形を、今、この時代を生きている私たちの手で創り上げていく必要がある。次なる120周年に向けて本日新たな第一歩を力強く踏み出し、挑戦し、努力を積み重ねます。」と力強い宣言がありました。

講演会では、「同位体惑星科学—隕石・小惑星・はやぶさ試料—」と題して、東京大学名誉教授の長尾敬介先生にご講演いただきました。長尾先生は、ご自身が関わられた「はやぶさ」や「はやぶさ2」の物質解析の研究について、小惑星から持ち帰ったガスや岩石から何が分かるのか、そしてその理由について詳しくお話しいただきました。また、宇宙の始まりから地球などの惑星ができる仕組みを、元素のお話を交えて説明していただき

ました。壮大なスケールの内容に、生徒もわくわくした気持ちで聞くことができ、知的好奇心を刺激される内容でした。冒頭には、ご自身が小学生のときに感銘を受けた本についても紹介され、これから自身の進路を考え、選択していく生徒の参考にもなったと思います。



長尾敬介氏のプロフィール

1949年岡山県真庭郡落合町関生まれ。岡山県立津山高等学校から大阪大学理学部物理学科へ進学。大学院修士課程・博士課程を修了し、理学博士の学位を取得。岡山理科大学・岡山大学教授、スイス・ベルン大学客員教授から東京大学理学部教授として定年まで勤務。2014年国際天文学連合・国際会議「小惑星・彗星・流星2014」において

小惑星8633を「keisukenagao」と命名。隕石や岩石に含まれる希ガスに関する数多くの研究を行い、南極や北極の地質調査にも積極的に参加した。退職後は東京大学名誉教授として、また韓国極地研究所から客員教授として招聘され、最近では探査機「はやぶさ」が小惑星「イトカワ」から持ち帰った微粒子の分析チームの一員として活躍中。

令和3年の学校の様子

昨年同様、本年度も新型コロナウイルスの影響で、各種行事が簡略化されました。3月の卒業式は卒業生・保護者・教職員のみのお出席となり、4月の入学式も来賓の方をお招きしない形で行われました。新入生を迎え、無事、新年度のスタートを切ったものの、5月16日には岡山県に再度緊急事態宣言が発令され、6月20日に解除されるまで、部活動が停止、もしくは制限されました。通常の大会は、今年度については実施できましたが、無観客など、制限のある中での実施となりました。学校生活においても、感染防止の徹底が求められました。基本的な感染対策はもちろんのこと、毎朝の健康観察の実施、集会・行事はネット配信により教室で行うなど、様々な対策が求められました。しかし8月27日には再びの緊

急事態宣言。宣言下という困難な状況の中、「鼓山祭」の実施に向けて教職員・生徒で協議し、非公開ながら無事に開催することができました。

10月8日には創立110周年記念式が勝山文化センターで行われ、規模を縮小しての開催となりましたが、110周年にふさわしい、厳粛な式典となりました。式典終了後には記念講演会として長尾敬介氏より、ご講演をいただきました。

この1年で大きな改革といえばインターネット利用による学習です。ネットを通じて連絡・指示・授業動画が配信され、提出物もネットで行う場合もあります。今年度新入生からは、全員端末を購入し、学校内でもWiFiなどのネット環境が整えられている状況です。生徒はもちろんですが我々教員も学習環境の変化に対応を求められる1年でした。

会計報告

令和2年度
同窓会会計決算書

収入の部

(単位：円)

科目	予算額	収入済額	比較増減(△)	摘要
繰越金	1,306,589	1,306,589	0	令和元年度からの繰越金
生徒入会金	705,000	640,000	△ 65,000	生徒入会金5,000円×128名
雑収入	411	19,035	18,624	会員寄付・会員名簿・預金利息等
合計	2,012,000	1,965,624	△ 46,376	

支出の部

(単位：円)

科目	当初予算額	流用額	予算現額	支出済額	残額	摘要
広告費	50,000	0	50,000	0	50,000	
旅費	180,000	0	180,000	0	180,000	
会議費	100,000	0	100,000	0	100,000	
慶弔費	40,000	0	40,000	0	40,000	
通信費	30,000	0	30,000	12,960	17,040	郵送料
助成費	250,000	0	250,000	100,000	150,000	本部総会後幹事会助成
需用費	100,000	8,000	108,000	107,360	640	消耗品購入費等
予備費	1,262,000	△ 8,000	1,254,000	0	1,254,000	
合計	2,012,000	0	2,012,000	220,320	1,791,680	

収入済額 1,965,624円 - 支出済額 220,320円 = 残額 1,745,304円 (令和3年度へ繰越)

令和2年度
同窓会会報会計決算書

収入の部

(単位：円)

科目	予算額	収入済額	比較増減(△)	摘要
繰越金	2,520,866	2,520,866	0	令和元年度からの繰越金
賛助金	2,068,000	1,630,000	△ 438,000	会報賛助金664件
雑収入	134	0	△ 134	
合計	4,589,000	4,150,866	△ 438,134	

支出の部

(単位：円)

科目	予算額	流用額	予算現額	支出済額	残額	摘要
賛助金振込手数料	104,000	3,000	107,000	106,896	104	会報賛助金664件
会報発行費	1,794,000	0	1,794,000	1,793,047	953	
口座振込手数料	1,000	0	1,000	0	1,000	
予備費	2,690,000	△ 3,000	2,687,000	100,927	2,586,073	ふるさと岡山“学び舎”環境整備事業に協力するため周知用チラシを会報に同封
合計	4,589,000	0	4,589,000	2,000,870	2,588,130	

収入済額 4,150,866円 - 支出済額 2,000,870円 = 残額 2,149,996円 (令和3年度へ繰越)

上記のように、このたびも会報に多額の協賛金を頂戴しました。皆様のご温情に心より感謝いたしております。会報賛助金のおかげで今回もページ増で、活字も大きくした形でお届けすることができました。年に一度の会報ではありますが、今後とも変わらぬご理解・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



入学式



サマースクール



進学ガイダンス



書道部まにわくん

